

『「あなたと並べてわたしが造った」 ～ 「誉めてやらねば 人は動かじ」 ～』

2023 年 3 月 23 日『樋野動物園』(画像)のゴリラ (森)様から『ゴリラとカバ (ゴリラのご主人)』の写真が送られて来た(画像)。大いに感動した。旧約聖書『ヨブ記』40 章 15 節『さあ、河馬(かば)を見よ。これはあなたと並べてわたしが造ったもの、——』が、今回鮮明に思い出された。

恵泉女学園の本部職員対象説明会で『30 年後の恵泉を考える会』(2023 年 3 月 23 日設立)で話が大いに盛り上がった。【そういうのは、樋野先生が率先してやってみせてくださらないと、現実とならないと思います。私の郷里の偉人山本五十六の有名な言葉。『やってみせ 言って聞かせて させてみて 誉めてやらねば 人は動かじ』】とのことで、筆者は、会長とのことである。まさに、『冗談を本気でする胆力』の試金石である。新渡戸稲造(1862-1933)は、1920 年国際連盟事務次長に就いた。1922 年に国際連盟知的協力委員会(The International Committee on Intellectual Cooperation)を立ち上げた。ユネスコの前身で委員は 12 名であった。【国際関係改善のために各国間における思想や知識の交換を図る方途を審議することを目的に、国際連盟の諮問委員会として設置され、1922 年 8 月 1 日に第 1 回委員会が開催されました。—— 委員会設立に際して、国際連盟事務局次長であった新渡戸稲造が幹事長に就任し、哲学者ベルグソン(Henri-Louis Bergson、1859-1941)、物理学者のアインシュタイン(Albert Einstein、1879-1955)、キュリー夫人(Madame Curie、1867-1934)などが委員を務めました。】と謳われている。

栄研化学モダンメディア編集室から【過日は本誌『Master's Lectures』に『新渡戸稲造生誕 160 周年に寄せて ～ 「自分の力が 人に役に立つと思うときは 進んでやれ」～』のご執筆を賜り、誠にありがとうございました。— 原稿の PDF ファイルをお送りいたします。】(画像)が送られてきた。筆者は、2007 年から新渡戸稲造『武士道』と内村鑑三(1861-1930)『代表的日本人』の読書会を毎月行っている。まさに『役割意識と使命感 ～ 「新しい自分の発見 & 他人の理解が深まる」～』である。これこそ『自分の力が人に役に立つと思うときは進んでやれ』(新渡戸稲造)の実践ではなかろうか!



「樋野動物園」1周年記念誌  
個性と多様性

「樋野動物園」出版局



04 モダンメディア 68巻9号2022 [Master's Lectures]



Master's Lectures – 21

「新渡戸稲造生誕160周年に寄せて」  
～「自分の力が 人に役に立つと思うときは 進んでやれ」～

順天大学 名誉教授  
新渡戸稲造記念センター長  
恵美女学院 理事長  
の 樋 野 興 夫  
Okio HINO

新渡戸稲造（にとべいなぞう：1862 - 1933）は、農学者、教育者。南部藩士の三男として盛岡に生まれる。札幌農学校に入学し、欧米に留学し、メアリー・エルクントンと結婚、札幌農学校の教授に。英語で「武士道」を出版し、第一高等学校長などを歴任。「太平洋の橋たらん」との信念を持ち、1920年、国際連盟事務次長に就いた。著書に『新渡戸稲造全集』（教文館）、『新渡戸稲造論集』（岩波書店）などがある。

筆者の故郷【当時の住所名：島根県簸川郡大社町廻峰（うご）】、現在は、島根県出雲市大社町廻峰は無医村であり、幼年期、熱を出しては今は亡き母（96歳で逝去）に背負われて、隣の村（鷺浦）の診療所に行った体験が、脳裏に焼き付いている。そして、人生3歳にして、医者になろうと思った。

712年に編纂された『古事記』に登場する、医療の原点を載せてくれる大国主命の出雲大社から、8キロほど、峠を越えて美しい日本海に面した小さな村が、筆者の生まれ育った郷土である。隣の鷺浦と合わせて、廻（う）鷺（さぎ）と呼ばれている。713

年に編纂が命じられたという『出雲国風土記』にも登場する歴史ある地である。その村で、筆者の生涯に強い印象を与えたひとつの言葉がある。母校の鷺鷺小学校（廻峰と鷺浦の中間に位置する）の卒業式で、宋賓が言った言葉「ボーイズ、ビー・アンビシャス」(Boys be ambitious!)である。札幌農学校を卒業したウィリアム・クラーク（1826-1886）が、その地を去るに臨んで、馬上から学生に向かって叫んだと伝えられている言葉である。もちろん、当時の筆者は、クラークのことも札幌農学校のことも知らず、クラーク精神が新渡戸稲造、内村鑑三（1861-1930）という後に、筆者の尊敬する2人を生んだことも知らぬまま、ただ、鷺鷺小学校の卒業式で、宋賓が言った言葉の響きに胸が染み入り、ほっと希望が灯るような思いであった。これが筆者の原点であり、そして19歳の時から、尊敬する人物を、静かに、学んできた。その人物とは、南原繁（1889-1974）であり、上記の新渡戸稲造・内村鑑三であり、また、矢内原忠雄（1880-1961）である。



写真1 廻峰漁港（廻峰）



写真2 ウィリアム・クラーク像（羊ヶ丘展望台）